

福岡県立大学大学院看護学研究科 精神看護トピックセミナー開催報告

日時 平成 29 年 12 月 2 日 (土) 10 : 30 ~ 12 : 00

場所 電気ビル共創館 BIZCOLI ミーティングルーム (福岡市中央区渡辺通り)

セミナーの内容 講演とディスカッション

講演のテーマ 「複数の機関や部署で異なる役割を兼務する専門看護師の役割開発とセルフマネジメント」

講師 和洋女子大学 准教授 寺岡征太郎先生 (精神看護専門看護師)

参加対象 専門看護師、大学院生、教員

1. 講師、参加者の紹介

講師の寺岡先生は、長崎大学医療技術短期大学で准学士、大分大学で学士を取得後、大分の精神科病院、東京の長谷川病院での精神科看護の実践を積み、その後、北里大学大学院精神看護専門看護師コースで修士を取得されました。大学院修了後は長谷川病院に戻られ、そこで、副師長や精神看護専門看護師として精神障害者の看護の質の向上、精神障害者の QOL とケア満足度の向上のために活動を展開されました。その後、長崎大学病院でリエゾン精神看護の専門看護師として、身体疾患のために複雑で解決困難な精神の健康問題を持つ人々への直接ケア、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究を行われ、チーム医療の推進 (認定看護師との協働、リエゾンチームの構築など)、看護の質の向上と看護師のエンパワメント、看護師の倫理的感受性の向上とケアの質の向上、それらを通じた患者や家族のケア満足度の向上と QOL の促進に寄与されました。そして臨床での超多忙なお仕事をされる傍ら、長崎大学で博士号を取得され、その後、東京医科大学医学部看護学科の講師、今春からは、和洋女子大学看護学部 (平成 30 年度開設) の准教授をされています。現在は、大学でのお仕事の傍ら、精神科病院では狭義の精神看護専門看護師を、総合病院ではリエゾン精神看護専門看護師として、実践から離れずに教育、研究を行われています。興味をお持ちの研究テーマは自殺企図のある患者の看護や、自殺に遭遇した看護職者への支援に関する事で、多くの研究をされています。また、専門看護師の職能団体である「日本専門看護師協議会」では、専門看護師を目指す人や専門看護師のキャリア形成支援、専門看護師の臨床能力の向上のために、力を尽くしていらっしゃいます。

今回のトピックセミナーでは、その豊富で多様な精神看護専門看護師としての活動や教育の御経験を踏まえた、専門看護師としての役割開発とセルフマネジメントの在り方についてお話をいただきました。寺岡先生は、ご自分の役割開発の歴史という経験知と、研究等で明らかになっている理論知をつなぎながら分かり易くプレゼンテーションしていただいた参加者は、精神看護専門看護師、小児看護専門看護師、がん看護専門看護師、大学院の修了生で精神看護専門看護師を目指している看護職者、看護教員の 11 名でした。

2. 講演内容

専門看護師が臨床で力を発揮するためには、活動の基盤づくりが重要で、専門看護師が組織に参入していく時に、プラスアルファの独自性のあるアイデア、知性、社会のニーズへの感受性・先見性という展望、創造性、直観が必要で、専門看護師を上手に活用できる組織に変えていくためには、看護管理者とのコミュニケーションとそれを通じた協働が鍵となることでした。そしてそれらのことを成し遂げていくためには、自分自身が「できる」という確信とやり遂げるという情熱をもち、コミュニケーションをとる対象に伝わりやすい言葉で理論等の科学的根拠を伝えることを常に意識することが重要ということでした。また、組織に専門看護師が入っていく時に役割ストレスと役割緊張が専門看護師と組織の看護管理者をはじめとして、様々なレベルで起こることは当然であり、対立、不調和、役割不測、不明確さ等の困難が伴うのは当然のことという認識も必要ということでした。また、専門看護師や専門看護師を目指す人が、自分のイメージだけで周囲の人と専門看護師の活動を説明しようとする、うまくいかないため、双方の思いのずれを認識し、ずれがどこから来るのかをアセスメントし、折り合いをつける努力を互いに積み重ねることが、すなわち、役割開発のプロセスであることも教えていただきました。また、専門看護師に役割転換していく時に、アイデンティティの危機を経験することは当然起こること、それに伴う揺らぎが大きいほど、結果として成長も大きいことを予め認識しておくことも重要とのことでした。役割転換に影響する要因としては、他にも「変化の予測」「周囲の環境とサポートシステム」「専門的な知識と技術」「役割モデルへの期待」があること、特に専門的な知識と技術を実践に活用する努力が必要であることが述べられました。アメリカで明らかになっている、高度実践看護師の役割開発のプロセスは、「オリエンテーション」⇒「フラストレーション」⇒「実践」⇒「統合」⇒「再編成(改善)」⇒「満足」で、予め、それを知っておくことが、確信をもって役割開発をしていくには導きの糸になるということでした。寺岡先生は、現在、大学の教員と狭義とリエゾン領域の精神看護専門看護師として活動中ですが、複数の役割を兼務するためには、組織のニーズと自分のニーズがあっているのかどうかの見極め、タイムマネジメントによる活動日の確保、常時臨床にいないというデメリットをメリットに変える工夫などが必要とのことでした。それらを実現するためには、専門看護師として活動を行うモチベーションの維持が重要で、自分の実践をリフレクションし、知性化することで自分を律する姿勢、なぜ専門看護師になったのかという専門看護師としてのアイデンティティ、自分の立脚点を常に意識する必要性を教えてくださいました。

ディスカッションの時間には、参加者からそれぞれの所属組織での活動の様子を伝えていただいたり、活動上の悩みや迷いなども表現され、それに対して寺岡先生は丁寧に分かり易く回答されていました。参加された方々からは、「とても分かり易く勉強になりました」「すぐに活かせそうです」等の声がありました。

3. アンケート結果

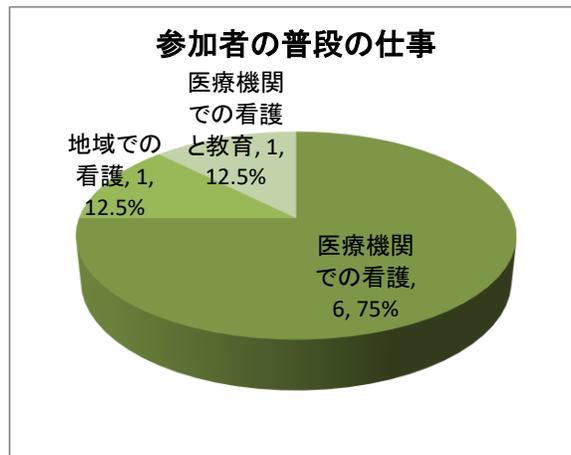
アンケートには、本学の教員以外、全員(8名)の方が御協力いただきました。結果は次の通りです。

参加者の看護師としての臨床経験は最小値 10 年、最大値 29 年、平均 19 年で、専門看護師としての経験年数の最小値は 1 年、最大値は 7 年でした。

表 1. 看護師として、専門看護師として、のキャリア n=7~8

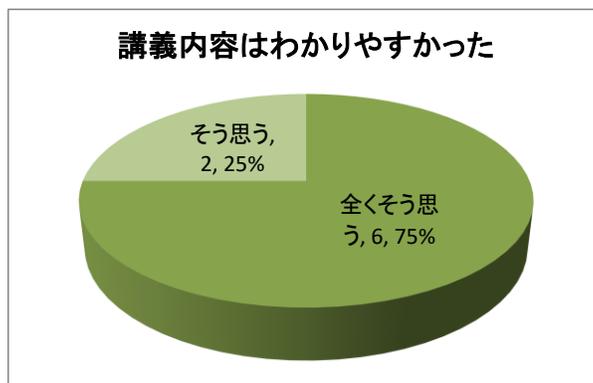
| キャリア | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
|-------------|----|-----|-----|-------|-------|
| 看護師としての経験 | 8 | 10 | 29 | 19.00 | 6.459 |
| 専門看護師としての経験 | 7 | 1 | 7 | 3.71 | 1.976 |

参加者が普段されているお仕事は、次のページのグラフ 1 に示す通り、医療機関が最も多く 75%、次いで、地域看護、医療機関と教育が 12.5%でした。



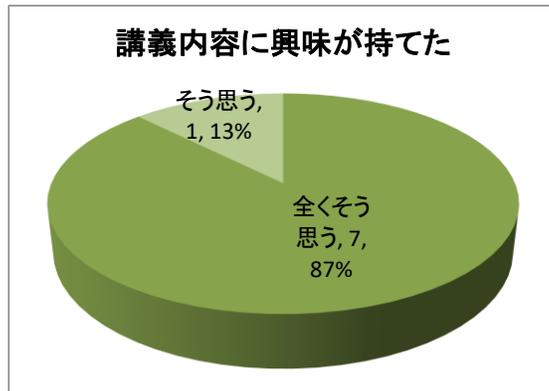
グラフ 1. 参加者の普段の仕事

講義内容はわかりやすかったと思うに関しては、「全くそう思う」が 75%、「そう思う」が 25%でした。



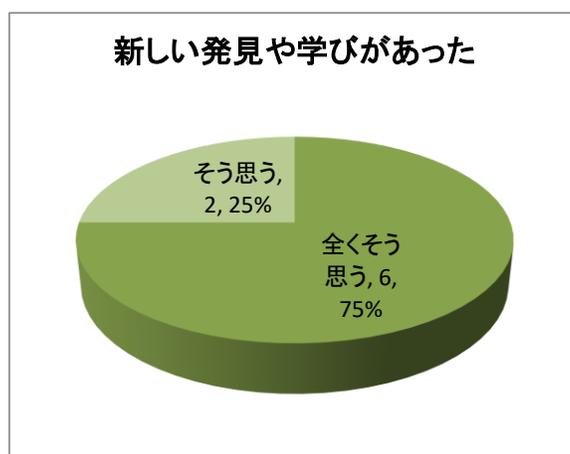
グラフ 2. 講義内容はわかりやすかった

講義内容に興味を持てたかに関しては、「全くそう思う」が87%、「そう思う」が13%でした。

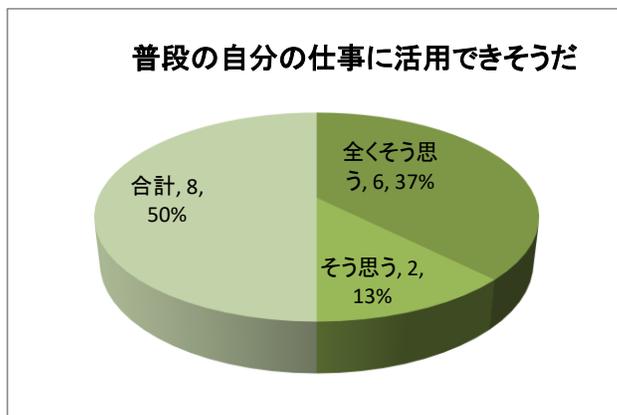


グラフ 3. 講義内容に興味を持てた

グラフ 4 の、新しい発見や学びがあったかに関しては、「全くそう思う」が75%、「そう思う」が25%でした。

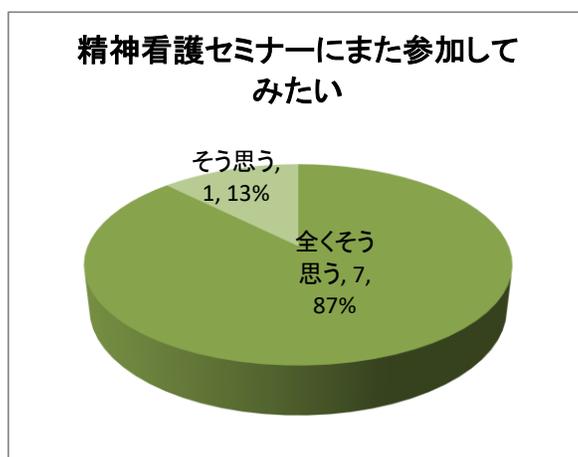


グラフ 4. 新しい発見や学びがあった



グラフ 5. 普段の自分の仕事に活用できそう

グラフ 6 の精神看護セミナーにまた参加してみたいに関しては、「全くそう思う」が 87%、「そう思う」が 13%でした。



グラフ 6. 精神看護セミナーにまた参加してみたい

以上のように、いずれの質問項目でも「全くそう思う」が高い値を示しており、参加者の満足度が高い様子がうかがえました。

自由記述では、「臨床での CNS をアカデミックに支援してくれるようなシステムを知りたい」、「精神疾患のある方の自己決定のサポート」に関するテーマを希望されていました。また、寺岡先生へのメッセージ欄には、他領域の CNS との交流は共通部分もあり良かった、リフレクションの機会になった、専門看護師としての心構えが学べた、更新申請に役立つ、などの御意見がありました。

アンケートに御協力いただいた参加者の皆様方、本当にありがとうございました。また、講義に御協力いただいた寺岡先生に深謝いたします。

今回の精神看護セミナーⅢの開催案内

期日 平成30年3月17日(土)

第一部:グループ・スーパービジョン 10:30~12:00

スーパーバイザー 長谷川病院 精神看護専門看護師 後藤優子先生

スーパーバイジー 八幡厚生病院 認知症病棟看護師長 畑辺由起子様

※第一部の参加対象者は、専門看護師、大学院修了生、大学院在学学生、教員です。

第二部:講演2題 13:00~16:10

テーマ 「オレム - アンダーウッドモデルとストレングスモデルの融合」

講師

聖路加国際大学看護大学院看護学研究科 研究科長 萱間真美 教授

医療法人碧水会 長谷川病院 精神看護専門看護師 後藤優子先生

萱間先生には理論的なお話を、後藤先生には、精神看護専門看護師としての病院内での実践的な展開のお話を中心に御講演いただく予定です。

※第二部の参加対象者は、専門看護師、福岡県及び近隣県の医療機関等や地域で勤務されている看護職者、大学院生、大学生、看護教員等です。

今回参加された皆様も含め、多くの看護職者の方々の御参加をお待ちしています。

お申込み方法

宛先 825-8585 福岡県田川市伊田 4395 番地

福岡県立大学大学院看護学研究科 准教授 松枝美智子

①~④をご記入の上、郵便でお申込みください。

①参加希望者の所属施設名、②病棟等、③職位、④お名前、連絡先メールアドレス

お問合せ 0947 - 42 - 2118 (代表) 0947 - 42 - 1403 (研究室直通)

文責 福岡県立大学大学院看護学研究科臨床領域精神看護学領域

松枝美智子 安永薫梨 宮崎初 中本亮